高校生の保健学習に対する意識と課題の検討

専　　攻：教科・領域教育学専攻
コ ー ス：生活・健康・総合内容系コース
学籍番号：M０９２１０B
氏　　名：佐々木　佳祐

Ⅰ　目的

保健学習は，学習指導要領に基づき，健康・安全に関する基礎的・基本的な内容を生徒が体系的に学習することにより，健康問題を認識し，これを科学的に思考・判断し，適切に対処できるようにすることをねらいとしており，生涯を通じて健康で安全な生活を送るための基礎を培う上で中心的な役割を担っているものである。従って，児童生徒が，学習指導要領で示された全ての内容を身につけ，健康を保持増進するための，行動に結びつけられるように指導することが求められる。しかし，保健学習に関する全国調査によれば，内容によっては，児童生徒が保健学習の内容を覚えていなかったり，関心の低かったりするものがあると指摘されている。そこで，本研究では，現行の学習指導要領に記載されている保健の学習内容に対する高校生の意識および関心の程度について調査を行い，特に意識および関心の低い内容については，その課題を検討することで，今後の保健学習を充実させるための基礎資料とすることを目的とした。

Ⅱ　方法と対象

・保健体育科教員対象個別インタビュー

質問紙を作成することを目的とし，高等学校に在籍する保健体育科教員の合計3名(男性2名，女性1名)を対象に，2010年6月に個別インタビューを実施した。内容は,「生徒の反応に関すること」,「教師の単元に対する認識」,「単元の内容」について調査を行った。

・高校生を対象とした質問紙調査

対象は，3県内の公立高等学校4校の3年生，合計615名（有効回答数合計508名(男子283名，女子225名)）とし，2010年7月～11月に実施した。調査方法は,無記名式の自記式質問紙調査を実施した。質問紙は，前記した報告書を参考に,「日常生活における実践状況」,「保健の学習意欲(保健学習に対する感情，保健学習の価値，保健学習への期待)」についての項目を作成した。また，教員対象の個別インタビューの結果をもとに精選し，高等学校で学習した「学習内容(17 項目)に対する意識」,「学習内容(17項目)の細目に対する関心の程度」についての項目を作成し，分析を行った。なお，対象校となった高等学校での保健体育科教員に対しても質問紙調査を行った。

高校生への調査対象校で，生徒の授業を担当した保健体育科教員，合計15名(男性12名，女性3名)を対象に，授業の実施状況，保健学習の指導の難しさ，保健学習で活用した授業方法について調査を行い，生徒の意識との関連性についても検討した。

分析には，PASW Statistics 18を使用した。

Ⅲ　結果および考察

・高校生を対象とした質問紙調査

①日常生活における実践状況について

「保健で学習したことから，自分の生活や周りの環境について，振り返ったり考えたりしていますか」,「テレビや新聞，インターネットなどで，健康に関する情報を見たり調べたりしていますか」の肯定的回答（「している」と「どちらかといえばしている」の合計とした)はそれぞれ,全体32.7%,全体25.0%と30%程度にとどまり，生徒の実践力を育成するためには，指導方法を工夫する必要があると考えられた。

②保健の学習意欲について

保健学習に対する「感情」(3 項目)，保健学習の「価値」(4 項目)，保健学習への「期待」(5 項目)について調査した結果,「価値」,「期待」の肯定的回答(「そう思う」と「どちらかといえばそう思う」の合計とした)は，それぞれ 54.9%～88.6%，49.4%～78.3%であり，比較的高率であったが,「感情」については 38.5%～42.2%であり，「価値」,「期待」に比べ,低率であった。保健の学習意欲については,全国調査と同様の結果であった。

③学習内容(17 項目)に対する意識について

「将来，自分の生活に生かそうと思いますか」および「内容はわかりましたか」の項目については,肯定的回答(　「将来，自分の生活に生かそうと思いますか」に対して「生かそうと思う」と「どちらか

といえば生かそうと思う」の合計，他の3項目も含めて以下同様)がそれぞれ 67.5%～83.7%，57.1%～81.5%と全般的に高く，否定的回答をはるかに上回った。一方で，「考えたり工夫したりできましたか」，「好きでしたか」の項目では，いずれの学習内容においても肯定的回答の割合がそれぞれ 34.4%～53.3%，40.2%～66.4%と 50%程度であった。また，学習内容別では，肯定的回答が他の項目に比べ高率であったものは，「喫煙，飲酒と健康」，「応急手当」であり，低率であったものは，「健康に関わる意志決定と行動選択」，「様々な保健活動」，「我が国や地域の保健・医療制度や機関」であった。

④学習内容(17 項目)の細目に対する関心の程度について

学習内容(17 項目)の細目に対する関心の程度について，関心が低かった 10 項目を，男女別に表1に示した。

表1　学習内容(17 項目)の細目に対する関心があると回答した割合が低かった 10 項目（男女別）

順位	学習内容(17項目)の細目（男子）	割合
85	ヘルスプロモーションの考え方について	7.1%
84	健康日本21の主な内容について	8.5%
83	心の問題の専門家や専門機関の活用について	8.8%
82	女性の性周期と基礎体温の関係について	9.2%
81	高齢者の生活を支える保健活動や法律、ボランティア活動について	12.0%
80	女性に関する思春期の体の特徴について	12.4%
78	ノーマライゼーションの考え方や身近にあるバリアフリーについて	13.1%
78	世界保健機関などの国際機関の諸活動の主な内容について	13.1%
76	適切な意志決定・行動選択のために必要なことについて	13.4%
76	適切な意志決定・行動選択をしやすい社会について	13.4%
	（女子）	
85	男性に関する思春期の体の特徴について	9.8%
84	ヘルスプロモーションの考え方について	11.1%
83	性的欲求について	12.0%
82	適切な意志決定・行動選択をしやすい社会について	12.0%
81	健康日本21の主な内容について	12.9%
80	保健行政の役割と仕組みについて	14.2%
79	意志決定・行動選択に影響を及ぼす要因について	15.6%
78	適切な意志決定・行動選択の重要性について	17.3%
77	食品の監視・指導活動について	18.2%
76	喫煙、飲酒に関する開始の要因について	18.7%

表1から，「ヘルスプロモーションの考え方について」，「健康日本 21 の主な内容について」，「高齢者の生活を支える保健活動や法律，ボランティア活動について」，「ノーマライゼーションの考え方や身近にあるバリアフリーについて」，「世界保健機関などの国際機関の諸活動の主な内容について」，「意志決定・行動選択をしやすい社会について」，「保健行政の役割と仕組みについて」の細目に対する回答の割合が低かったことから，「保健行政，制度の仕組みや対策に関する内容」に対する関心が低く，また，男子では，「女性の性周期と基礎体温の関係について」，「女性に関する思春期の体の特徴について」，女子では，「男性に関する思春期の体の特徴について」の細目に対する回答の割合が低かったことから，「異性の身体に関する内容」に対する関心が低いと考えられた。

質問紙調査を行った当該校の保健体育科教員を対象とした調査では，比較的指導しやすいと答えた内容は，「喫煙，飲酒と健康」14 名，「応急手当」14 名，「薬物乱用と健康」13 名，「医薬品の正しい使用」13 名，「交通安全」13 名，「感染症とその予防」12 名，「心身の相関とストレスへの対処」12 名，「結婚生活と健康」12 名であり，比較的指導が難しいと答えた内容は，「我が国や地域の保健・医療制度や機関」9 名，「環境の汚染と健康」8 名，「食品保健に関わる活動」7 名，「労働と健康」6 名であった。生徒の意識が高く，教員も指導しやすいと回答した学習内容のうち，「喫煙・飲酒と健康」の授業では，「ＶＴＲ・パンフレット，パワーポイントなどの活用」や，「ケーススタディ」，「ロールプレイング」による指導方法を，「応急手当」の授業では，「ＶＴＲ・パンフレット，パワーポイントなどの活用」や「実験・実習」による指導を取り入れたと回答する教員が多かった。また，生徒の意識が低く，教員も指導が難しいと回答した「我が国や地域の保健・医療制度や機関」の授業については，「講義のみ」と回答した教員が多かった。すなわち，教員が指導しやすいと考えている学習内容の授業は，その内容に即した授業方法の工夫が進められていることから，これにより生徒の意識も高くなったと考えられる。一方，指導が難しい内容については，講義以外の授業方法を活用することが難しく，従って生徒の意識も高まりが見られないと考えられる。以上より，指導が難しいと捉えられている学習内容の授業方法については，教材の工夫などの改善を行うことが，生徒の意識の向上につながるのではないかと示唆された。

Ⅳ　まとめ

本研究により，「健康に関わる意志決定と行動選択」，「様々な保健活動」，「我が国や地域の保健・医療制度や機関」に対する生徒の意識が低いことが明らかとなった。学習内容(17 項目)の細目の関心の程度について見ると，「保健行政，制度の仕組みや対策に関する内容」，「異性の身体に関する内容」に対する意識が低いと考えられた。また，教員が指導しやすいと考えている学習内容の授業は，様々な指導方法や教材の活用が行われており，生徒の高い意識につながっているものと考えられた。

今後，特に生徒の意識や関心が低い内容について，指導方法の工夫などにより，保健学習を充実させていくことが重要であると考える。

指導教員　鬼頭　英明
主任指導教員　松村　京子